コーディネーターと学級担任を支える ミドルリーダーの役割

学籍番号　209101
氏　　名　阿津坂　理沙
主指導教員　教授　家近　早苗

１．問題と目的

報告者の勤務する実習校は工業高校であり，組織的な特徴として，学科ごとに独立した体制がとられている。このことと関連して起こる実習校の課題は以下の４点であると考えられる。①学科の異なる教師が生徒の問題状況について話し合う体制がとられていないこと，②外部の専門家に相談することや協力する体制が不足していること，③担任が問題を一人で抱え込む傾向にあること，④中途退学者や転学者数が多いことである。そこで本実践研究の目的は，教師の援助サービスを向上させるためには，ミドルリーダーは何をすればいいか明らかにすることである。なお，本研究における報告者の実習校の立場は，基本学校実習Ⅰ・Ⅱでは進路指導主事，発展課題実習Ⅰ・Ⅱでは学年主任であり，ミドルリーダーの立場である。

２．実践研究の内容

研究Ⅰ　進路指導主事としての実践～コーディネーター会議の実施～

【目的】コーディネーター会議において報告者が進路指導主事としてどのような役割を果たしたかについて検討する。

【方法】（１）期間：2020 年４月～2021 年３月，（２）対象：実習校のコーディネーターの教師３名，SSW，報告者。実習校で開催した第１回から第 21 回のコーディネーター会議の報告者の記録，第９回から第 21 回の会議を録音した内容。（３）方法：コーディネーターの教師３名，SSW，報告者の５名でコーディネーター会議を開催し，その内容を記述する。また報告者の働きかけについてまとめる。

【結果・考察】進路指導主事として生徒の就職や進学についての援助だけでなく，特に支援を必要とする生徒や，コーディネーターの教師，SSW，一部の担任教師への支援を行った。SSW，コーディネーターの教師３名，報告者の計５名で年間 21 回のコーディネーター会議を開催した。報告者が果たした役割は，①校内の人的資源をつなげること，②目標の設定，③教師以外の視点を取り入れることであった。研究Ⅰでは報告者がミドルリーダーとしてコーディネーターの教師を支えながらも，特定の生徒への三次的な援助サービスと，特定の教師への援助しか行うことしかできなかった。さらに校内において援助する生徒や教師を広げる必要があると考えられる。

研究Ⅱ　学年主任としての実践～学年会の実施～

【目的】学級担任が一人で問題を抱えるのではなく，学年の教師や SSW と協力して生徒を援助できるようにするために，報告者が学年主任として何をするか明らかにする。

【方法】（１）期間：2021 年４月～2021 年 11 月，（２）対象：第１学年の学級担任４名，SSW，

報告者，報告者の実践内容，（３）方法：①報告者が学年主任として学年会を開催し，その内容について記述したものを要約する，②報告者の記録をもとに学年主任としての働きかけを抽出する，③2021 年７月と 11 月に実習校の第１学年の生徒 118 名（男子 88 名，女子 30 名）に「学校生活に関するアンケート」を実施する，アンケートの結果を用いて学年会で担任とともに振り返り課題を把握する，2021 年７月と 11 月の「学校生活に関するアンケート」を用いて生徒の変容について比較する，④「教師の心理教育的援助サービス」（Iechika & Ishikuma，2021）のアンケートを行い実習校の教師の援助サービスについて把握する。⑤学年会について担任へインタビューを行い内容について整理する。

【結果・考察】学年主任として働きかけた内容については，①中学校訪問への同行，②保護者への対応，③SSW との連携，④運営委員会・職員会議への働きかけ，⑤管理職からの要望の調整，⑥学年会の実施であった。報告者の学年主任としての役割は，①学年の中のつながりを強めること，②運営委員会や管理職に働きかけること，③学年の教師と共に考え行動することであると考えられる。

３．総合考察

本実践研究ではミドルリーダーの役割は資源をつなぐこと，共に成長することが示された（図１）。報告者の実践からは資源をつなぐ一つの方法としてチームを作ることが有効であると考えられた。そこで，研究Ⅰでは進路指導主事としてコーディネーターの教師３名や SSW と，研究Ⅱでは学年主任として学級担任４名や SSW とチームを作った。チームを作るためには，①場を設定すること，②連絡・調整をすること，③役割分担をすること，④目標を設定，共有し，明確にすることが重要である。またミドルリーダーと他の教師が共に成長することで，教師の力を伸ばすことにつながると考えられる。教師の力を伸ばすためには，①教師と一緒に行動すること，②教師の困り感を聞くこと，③教師の強みを活かすこと，④教師を支えることが重要である。さらにミドルリーダーが資源をつなぎ，他の教師と共に成長することで，生徒の学校適応に影響を与える可能性がある。この点については今後の課題である。

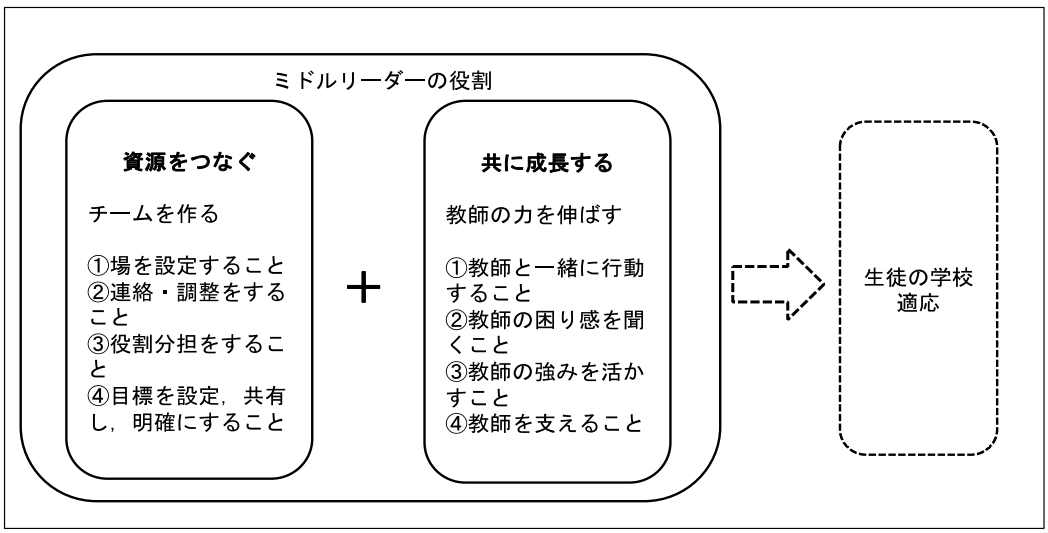

図１　教師の変化と生徒の学校適応の可能性のイメージ